

**第18回（令和7年度 第5回）**  
**松本市長と車座集会「みんなの尼活皆議」**  
**～子ども向け日本語ボランティア～**

**総合政策局 文化・人権担当 ダイバーシティ推進課**

# 目 次

- 1 在留外国人の状況について**
- 2 外国籍児童に対する日本語教育について**
- 3 市内の各日本語教室について**

# 1 急増する外国籍住民

令和6年の人口動態

尼崎市の2,400人の社会増のうち、1,216人が外国人

尼崎市の外国籍住民は**14,511人**

※ R 7.4.1時点

**令和7年9月1日時点 15,270人**

## 2 兵庫県内の状況（令和6年12月末時点）

地 域	市 町	外国人数	人 口	外国人比率	地 域	市 町	外国人数	人 口	外国人比率
神 戸	神 戸 市	60,211	1,490,896	4.04%	中播磨	姫 路 市	14,327	519,096	2.76%
阪神南	尼 崎 市	14,437	454,082	3.18%		神 河 町	118	9,626	1.23%
	西 宮 市	9,044	482,154	1.88%		市 川 町	175	10,153	1.72%
	芦 屋 市	2,115	92,454	2.29%		福 崎 町	566	18,849	3.00%
阪神北	伊 丹 市	3,807	194,782	1.95%	西播磨	相 生 市	636	26,523	2.40%
	宝 塚 市	3,379	220,709	1.53%		た つ の 市	1,108	70,877	1.56%
	川 西 市	1,975	148,840	1.33%		赤 穂 市	556	43,218	1.29%
	三 田 市	1,518	104,710	1.45%		宍 粟 市	377	31,759	1.19%
	猪 名 川 町	231	27,787	0.83%		太 子 町	399	32,869	1.21%
東播磨	明 石 市	4,181	306,505	1.36%		上 郡 町	253	12,818	1.97%
	加 古 川 市	3,972	254,840	1.56%	但 馬	佐 用 町	300	14,251	2.11%
	高 砂 市	1,556	84,302	1.85%		豊 岡 市	1,265	72,669	1.74%
	稲 美 町	721	29,874	2.41%		養 父 市	149	20,236	0.74%
	播 磨 町	615	33,669	1.83%		朝 来 市	478	26,909	1.78%
北播磨	西 脇 市	818	36,362	2.25%		香 美 町	217	14,352	1.51%
	三 木 市	2,736	71,708	3.82%	丹 波	新 温 泉 町	205	12,119	1.69%
	小 野 市	1,555	46,176	3.37%		丹 波 篠 山 市	1,113	37,765	2.95%
	加 西 市	1,689	40,515	4.17%		丹 波 市	1,390	58,180	2.39%
	加 東 市	1,947	39,818	4.89%	淡 路	洲 本 市	499	39,151	1.27%
	多 可 町	465	17,609	2.64%		淡 路 市	797	40,187	1.98%
						南 あ わ じ 市	776	41,368	1.88%
					計		142,676	5,330,767	2.68%

尼崎市の外国人比率は3.18%で県内で6番目。

国の外国人比率3.04%と比べても0.14ptの差。

[参考]  
国の外国人比率

3.04%

※外国人数は令和6年12月末時点

※人口推計は令和7年1月1日時点

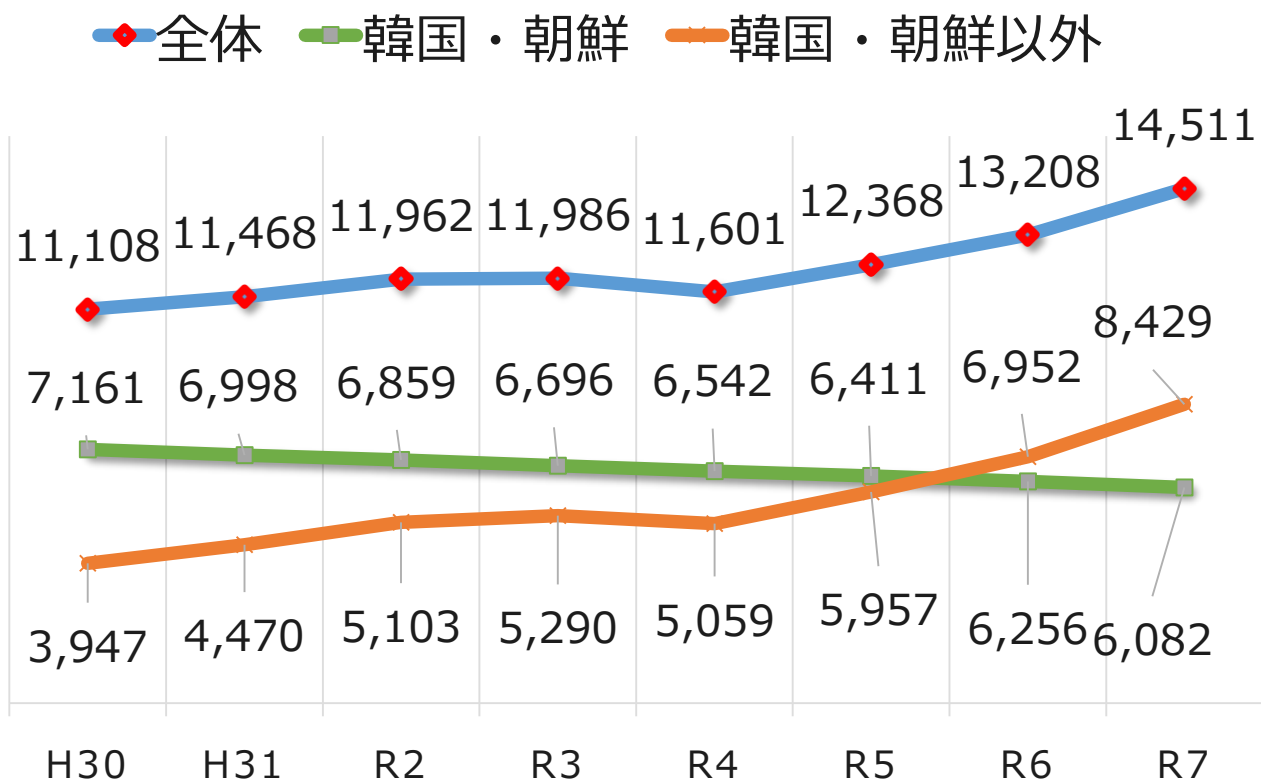
### 3 外国籍住民の増加要因

少子高齢化に伴い、企業の働き手が不足している中で、日本政府が経済成長を維持する観点から、働き手を確保するために、特定技能制度や育成就労制度の創設など、入国管理政策を見直したことが背景にあります。

# 4 外国籍住民の国籍別内訳

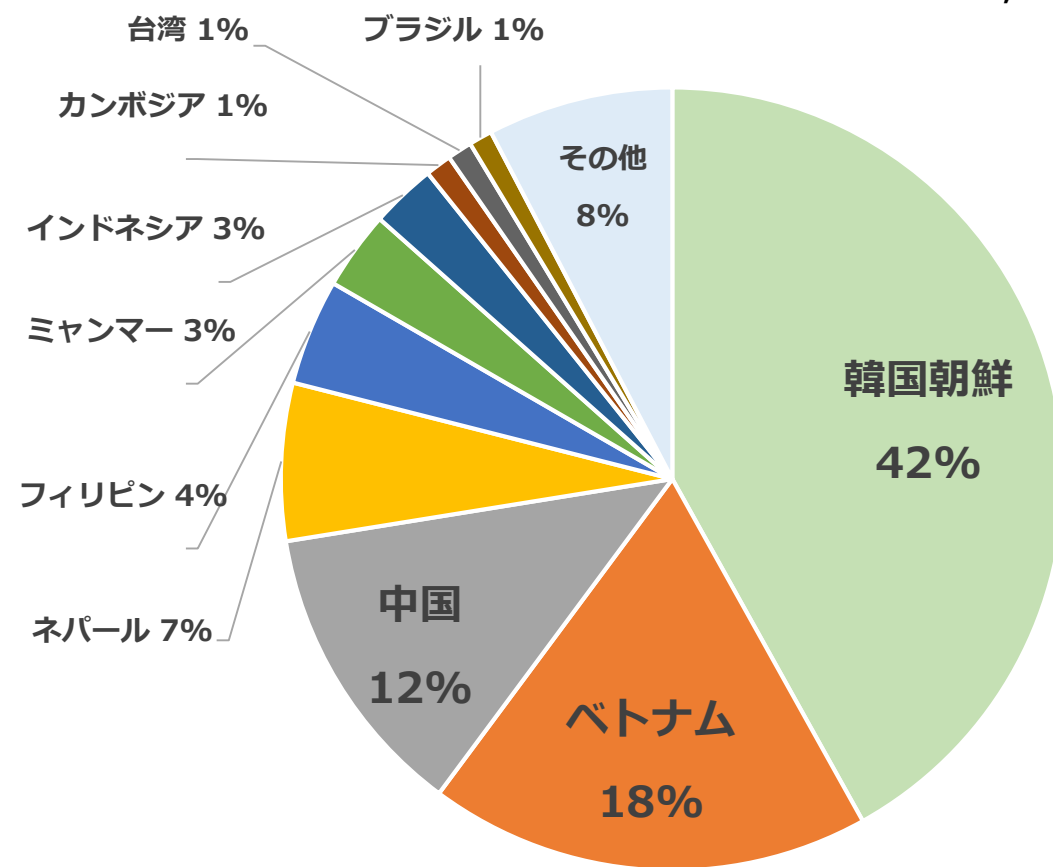
(人)

外国籍人口推移 (R7.4時点)



国籍別内訳 (R7.4時点)

n=14,511



# 5 日本語能力が十分でない外国籍住民の増加

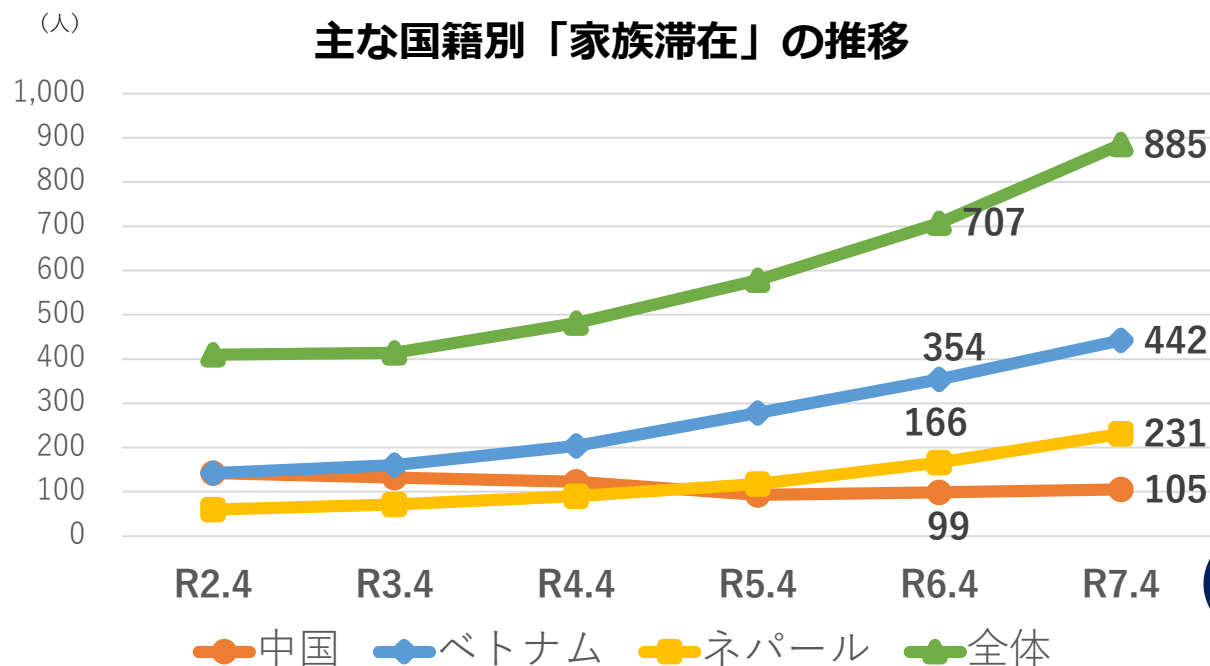


## 在留資格「家族滞在」の増加

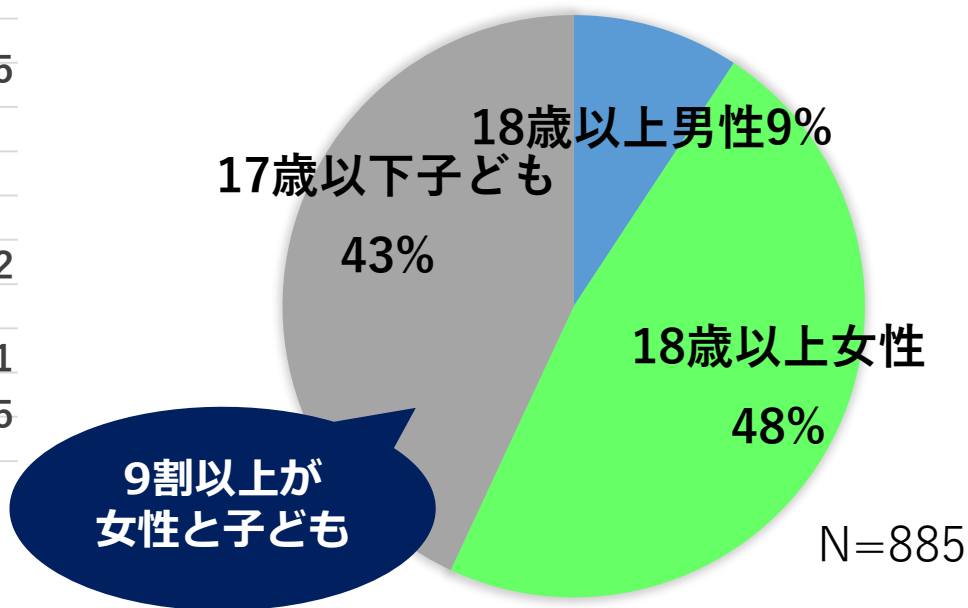
- 家族滞在での在留資格者の多くは日本語能力が十分ではなく、必要な情報が届きにくい。
- 同在留資格者の内訳は約91%が女性と子どもである。

日本語学習支援の充実  
など、安心して暮らせる  
ための環境づくりが  
重要

主な国籍別「家族滞在」の推移

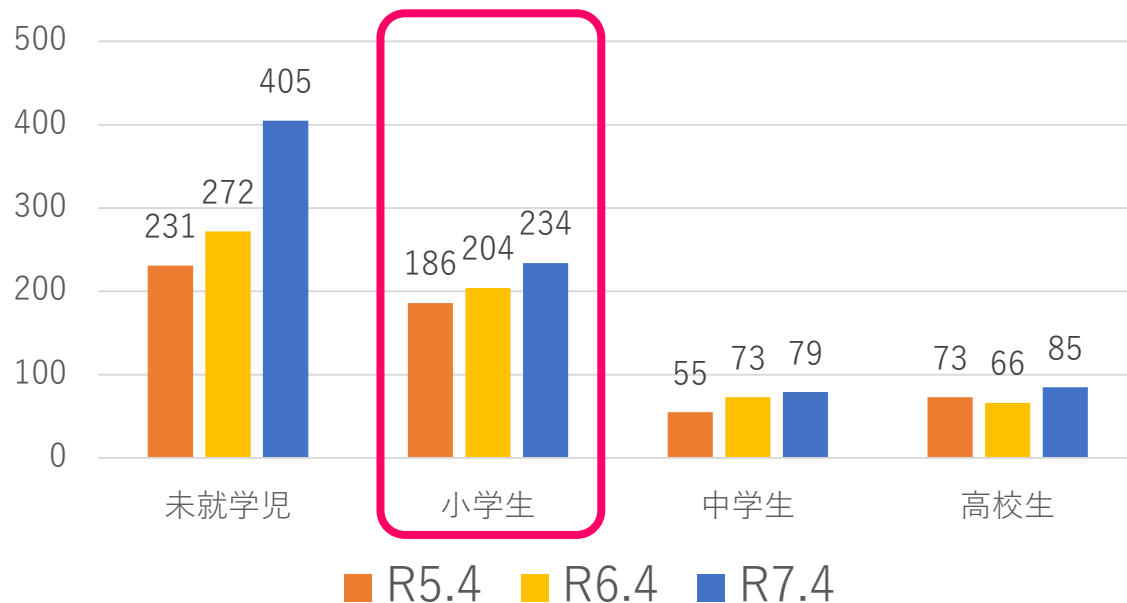


「家族滞在」の内訳（令和7年4月時点）



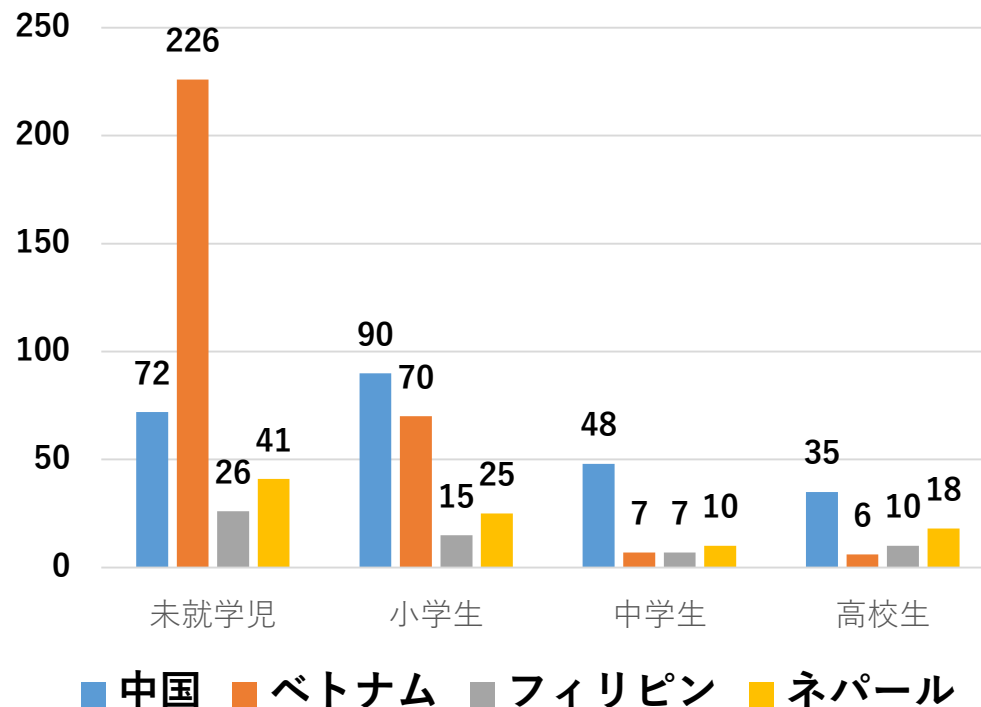
## 6 外国にルーツのある子どもたちの増加

外国籍児童・生徒等の推移（特別永住者除く）



R7.9月現在、市内の各小中学校で日本語指導が必要とされる児童は106名  
※ 4月当初は95名

国籍別内訳（令和7年4月時点）

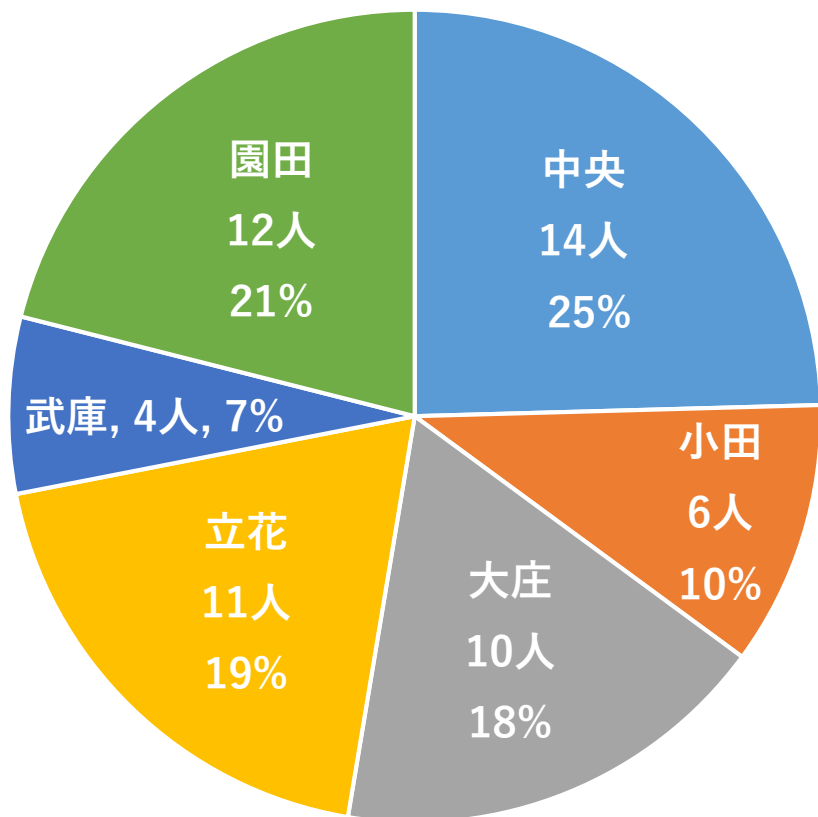


学校園等においても、言語支援など学校生活を円滑に過ごすことができる仕組みづくりが必要

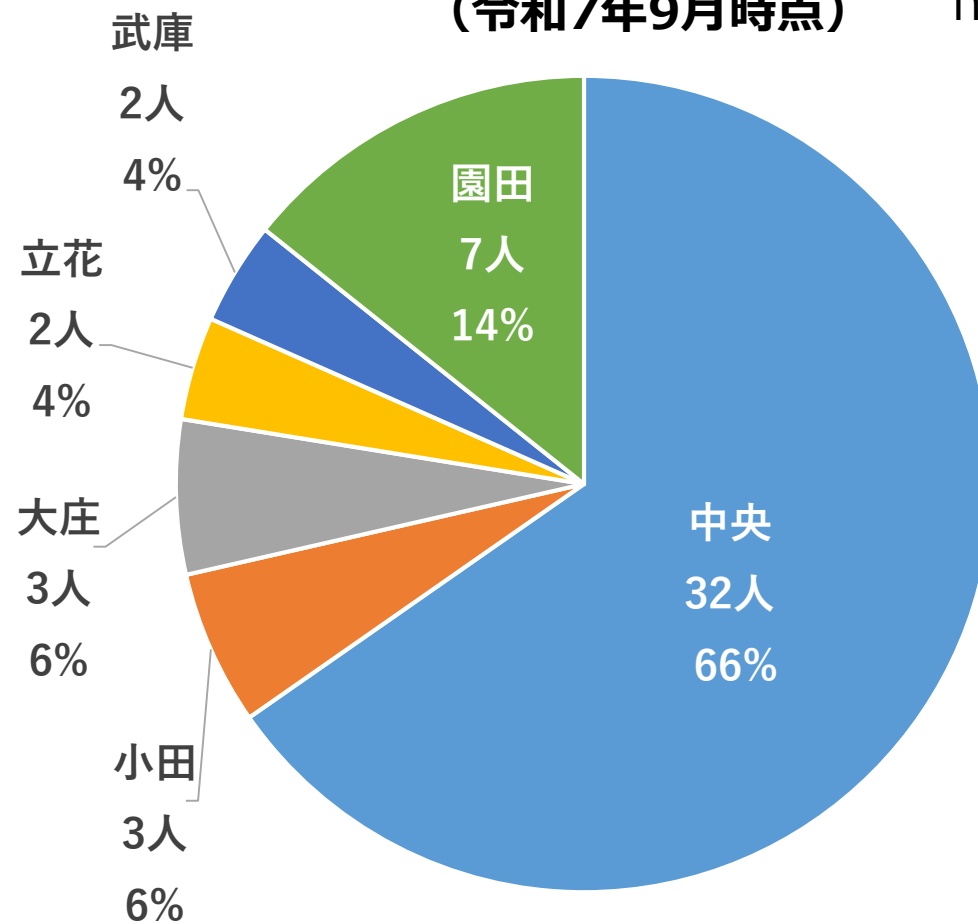


# 7 日本語指導が必要とされる児童・生徒数（地区別）

日本語指導が必要な小学校児童数（地区別）  
（令和7年9月時点） n=57



日本語指導が必要な中学校生徒数（地区別）  
（令和7年9月時点） n=49



# 8 小・中学校での日本語指導①

## 通訳者の派遣

教育委員会において、来日間もない外国籍児童・生徒に対して、授業のサポートなどを行う母語通訳者（県：子ども多文化共生サポーター、市：多文化共生支援員）の派遣を行っています。  
（R7.9月現在、35名の通訳者を派遣中。）



## 小・中学校への通訳機器の導入

- ・ ポケトーク for スクールの導入  
日本語での授業内容を母語に同時変換するAI通訳サービスを学校から利用申請のあった児童生徒(5年生以上)に向け、導入しています。
- ・ ポケトーク Sの設置  
授業以外の学校生活や校内外行事等において、児童生徒同士や教職員と円滑なコミュニケーションを行うため、持ち運び可能なAI通訳機を各市立小・中学校に1台設置しています。



# 9 小・中学校での日本語教育②

## 放課後日本語ボランティアの派遣

令和6年度から小学校の放課後学習の時間を活用し、生活言語の習得に必要な日本語教育を行うことを目的に、地域の日本語ボランティアを派遣する事業を試験的に実施しています。

実施日：週1回から2回程度、1回1時間程度

派遣ボランティア数：6名

### 【派遣校】

明 城：ベトナム（2名）  
難 波：ベトナム（1名）、中国（1名）  
竹 谷：ネパール（1名）  
水 堂：ネパール（1名）  
園田北：ベトナム（2名）  
上坂部：ネパール（1名）



# 10 地域の日本語教室①

現在、市内の日本語教室は**全13教室**  
(市主催：5ヶ所、地域団体等の運営：8ヶ所)

そのうち、子どもの受け入れを行っているのは**5教室**。

- ① 中央日本語よみかき学級 (子ども教室5名)
- ② 武庫東プラザ日本語教室 (子ども5名/全25名中)
- ③ こんぺいとう日本語教室 (子ども教室5名)
- ④ にほんごのまど (親子教室2名)
- ⑤ コスモスの会 (子ども4名/全18名中)





# 1 1 地域の日本語教室②

## 新しく「立花子ども日本語教室」が開校します！

令和7年10月7日（火）に立花南生涯学習プラザに  
子ども向け日本語教室が新たに開校します。

日時：毎週火曜日 18時30分～19時30分

対象：小学生・中学生  
（保護者も希望があれば一緒に受講可）

費用：無料（テキスト代は必要）

主催：立花地域課

2025年10月7日からはじまります！

にほんご 日本語を学びたい

こどもを あつめています

立花子ども日本語教室

- ・ボランティアが、こどもに にほんごを おしえます。
- ・にほんごの べんきょうを したいひとは もうしこみが ひつようです。
- ・こどものおやも にほんごを まなべます。

立花南生涯学習プラザ 1階 会議室

10月7日から 毎週火曜日

18:30～19:30

学校に行っているこども（6～15歳）

さんかひ ¥0

できすどいは、いります

ここから もうしこみます

ばしょ

お問い合わせは あまがさきし たちばなちいきか  
あまがさきし たちばなちいきか あまがさきし くりやまちょう2-25-28  
問合せ: 尼崎市立花地域課 尼崎市栗山町2-25-28 (立花南生涯学習プラザ内)  
TEL: 06-6427-7770 FAX: 06-6427-7773  
ama-tachibanacenter@city.amagasaki.hyogo.jp

# 12 子ども向け日本語教育の課題

## 子どもを対象にした日本語教室の現状・課題

- ① 地域の日本語教室（大人向け含む）において、受講希望者が増加しており、ボランティアの不足が生じつつある。
- ② 子どもへの日本語教育には、多様な子どもの状況に対応できる指導スキルの習得が必要である。
- ③ 子どもが安心して学びやすい環境の構築が必要である。



各地域における日本語ボランティアの養成・確保

教室間の子どもへの対応に関する情報交換等の仕組みづくりの必要性

# 1 3 本日皆さんと話したいこと

- ① 子どもへの教え方・関わり方などについて。
- ② ボランティアを行う上での悩みや対応事例の共有。
- ③ 子どもが安心して学びやすい環境構築に向けて、市や学校、各教室等がどのような協力・連携ができるか。